



## かわい

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/>



## 日常の活動 大きなステップ

副校長 西原 千輪子

爽やかな季節となりました。新型コロナウイルス感染症が5類となつてからは、川井小学校では順次児童の活動の制限を緩和しつつ、加速度的にICT化した活動については今後も活かしていけるように話し合ってきました。また、近年の気候変動に合わせて、熱中症に気を付けながら活動していくことも大切にしています。

5月12日は読書集会でした。3年ぶりに体育館に全校が集まる集会、新しい先生たちの好きな本の紹介を図書委員会と学校司書の渡辺先生が行いました。図書委員会児童は全校児童の前のステージで、しっかりと何も見ないでプレゼンをしています。何度も練習してきたまじめな取組が嬉しいです。そして、最後のほうは集中が途切れてしまう1年生、集会の風物詩です。図書委員の児童は先生方にすごく褒められていました。

2年生や個別支援級は植物や野菜の栽培をしていました。ピーマンやキュウリ、トウモロコシをビニールポットから大事そうに出して、花壇の畝に植え、ポンポンと土を叩いて苗を安定させています。その手が茎に当たったときは、周りの子がびっくり。「苗が死んじゃうところだったね。」翌日事務の先生からトウモロコシは1本ずつ植えようと習っていました。すると、何やら窓からいい匂いが漂ってきました。6年生が家庭科室で野菜炒めを作っている、サラダ油とピーマンやキャベツの合わさったとても良い匂いでした。家庭科室の後ろのテーブルは試食場所になっています。自称野菜嫌いの男の子、自分で炒めたスパイシーな野菜のおいしさにビックリして、「これだったら全部いけるぞ。」と、すごい勢いで食べています。

3年生はモンシロチョウの変態を見るために、まず昆虫の卵を産むキャベツをたくさん育てています。ちょうどゆずに集まったアゲハチョウの幼虫を集めて飼育していたので、子どもたちに観察させたいという思いで先生方に差し上げました。すると、翌日から毎日毎日、「副校長先生、アゲハの幼虫とさなぎをありがとう」とたくさんの子から声を掛けられとても嬉しかったです。子どもたちにとって生き物はすごく大事なもので、しっかりとお礼が言える子たちに育っていると気付きました。そして数日後、30個以上のモンシロチョウの卵を見つけた3年生。「すごい卵いっぱい。」「この小さいのが卵だよ。」と目を輝かせていました。

子どもたちは目の前の体験からいろんな気付きを展開しています。授業の1コマ1コマが瑞々しく充実して、より楽しく感じられます。自分たちの手で育てたり、食べたり、全校で集まったり、友達や先生の顔をみて意見を交わしたり、これらの活動が子どもたちを生き生きと輝かせるのです。よくこのエネルギーをもち続けてくれました。この3年間を総括するようですが、感染症でつらい思いをした方にはお見舞い申し上げます。一方、今は、普通の学習活動の楽しさを満喫させたいと思います。好きな事や自分の適性を見つけるのは、そのようなことが満たされてからだと感じています。

4月29日は、「ネイチャーナイト」前の地域学校協働活動本部の活動としてアメニティーの草刈りが行われ、児童も含めて13名の参加でした。PTA会長さんやコーディネーターさんが刈り払いした後の雑草やサワワサビを片付けていると、「藪の近くを1年生が歩いた時にけがをしないようにね。」と温かい言葉が聞こえてきました。5月18日は第1回学校運営協議会でした。委員のみなさんが児童の授業を参観し、子どもたちの表情の良さ、学習への姿勢の良さ、先生方の授業の工夫を大変認めてくださいました。

そして、ICTを取り入れていく学習の中で、書いて身に付ける堅実な学びの良さを忘れてはいけないとも言及されていました。また、先生や家族がまず、元気な生活することが子どもたちにとって、一番大切であることを話し合いました。地域学校協働活動本部、学校運営協議会の二つの組織の方々が両輪となり、川井小の教育活動を支えていただいていると感じました。

